

# 江東未来会議

## 第5分科会（行財政運営・協働）

### 第2回 議事概要

日時：平成19年10月18日（木）19:00～21:10

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：24人

#### 1. 開会

#### 2. 本日のワークショップの進め方について

##### ○田中コーディネーター

資料「めざすべき将来イメージの検討」を用い説明

- ・本日は3グループに分かれて討議を進めるが、本日のグループ分けは事務局で50音順の名簿から3等分する形でA～Cグループを設定させていただいた。
- ・本日はグループ別にめざすべき将来イメージを検討していただく。それぞれ自分の描く将来イメージを付箋に書き出し、それを模造紙に貼りながら類似したイメージを寄せ集めていくことで各グループの代表的な意見・テーマを抽出していく。
- ・抽出された意見・テーマの中から各グループで特に重要と思われるものを2つ選んで、本日の最後にグループ毎に発表をしていただく。
- ・3グループから都合6つ発表された意見・テーマを、本日の議論内容と齟齬がない形で3つのテーマ群に事務局で再整理し、次回会議の冒頭に提示する。その3つのテーマのうち、最も関心のあるテーマのグループに参加していただき、テーマ別に議論を深めていくことにする。

##### ○参加者

- ・本分科会は「行財政運営・協働」を議論する分科会として位置づけられているが、将来像をイメージする上では、このテーマに固定化しなくてもよいのか。

##### ○田中コーディネーター

- ・「行財政運営・協働」というテーマだと自分が思うものを挙げていただければよい。イメージは個々人で異なるので、他人や既定の「行財政運営・協働」というイメージに縛られることなく挙げていただければよい。
- ・このように考えて発表していくことで、新しい「行財政運営・協働」のイメージが共有され、新たな発見が期待できる。
- ・また、本日の留意点として、各グループでの意見、議論の内容は必ず付箋に書き残すようにしていただきたい。今後、各グループの討議結果をとりまとめていく段階で文字と

して残っていないものは記録されていないのでご注意ください。

### 3. ワークショップ

#### (1) 各グループで自己紹介

○田中コーディネーター

- ・各グループには前回欠席であった方がいるので、改めてグループごとに自己紹介を簡単  
にお願いしたい。

【グループごとに自己紹介】

#### (2) 作業

個々人が、行財政運営・協働分野と思うものについて江東区における望ましい将来像のイメージを付箋に記入し、模造紙に整理した。その後、グループ毎に特に重要と思われる意見・テーマを2つ抽出した。

【グループごとに作業】

#### (3) 発表

○田中コーディネーター

- ・討議内容をみていると、他の分科会で議論しているテーマに近いものもみられる。おそらく他分科会でも当分科会で出た意見と類似した意見は出されていると思うので、これらの意見の扱いについては事務局に一任していただければと思う。(了承)

【作業結果】詳細は別紙(「第2回江東未来会議 行財政運営・協働分野」グループ別取りまとめ)参照

○Aグループ

- ・個々人の意見を集約していった結果、10のテーマが整理された。このうち、「自然エネルギー・環境・ごみ」については第4分科会で、「高齢者&お子さん教育対策」は第1・3分科会で議論されると思われるので重点テーマとしては取り上げなかった。
- ・残ったテーマの中で、行財政運営・協働分科会の使命を考え、「予算・税の使い方」は取り上げていきたいと思っている。さらに、その予算・税を使って、どのような将来像を持つべきなのかということ提案していこうと考えている。
- ・最終的に私たちがどういう将来像を提案していくのかということについては、まだ議論中であったのだが、1つは「伝統・歴史・近代化が調和した町」であるが、これではテーマが大きすぎて具体性がないということで、具体的なイメージとして浮上しているのが「車社会を考える～交通の再考」ということで広い江東区をどのように様々な交通網で結んでいくかということについて具体的な提案をしていくべきであるという議論をしている最中であった。

○Bグループ

- ・ 個々人の意見を集約していった結果、11のテーマができたが、Aグループと同様に教育や環境など他分科会で検討されると思われるテーマは今回の検討対象からは除外した。
- ・ 残ったテーマの中で、「行政」と「業務の民営化・分担、区民が運営」と「財政」はほぼ1つのテーマとして取り上げられるのではないかと考えている。
- ・ その中でも特に議論されたのは「財政」のムダが多いのではないかという視点から、財政に対するチェック機能をどう働かせていくのかということについて議論されている途中であった。
- ・ もう1つの「協働と参加」は「区議会運営」と結びついており、NPOの参画をどう促すのか、また、業務を外部発注していく際の問題点等について議論している最中であった。
- ・ Bグループでは具体的にどの2つのテーマに絞るのかという点までは議論を詰めることはできなかった。

○Cグループ

- ・ 個々人の意見を集約していった結果、6のテーマが整理された。このうち、「男女の平等」「コミュニティ」「特性を活かした環境」「まちづくり」については他分科会のテーマとしてあがっているので、そちらでの検討に任せることとした。
- ・ そこで、Cグループとしては「行政への参画」と「国・自治体との協働」をテーマとして取り上げた。
- ・ 「行政への参画」は行政に参画していこうというグループと、現在行政が行っていることをきちんと評価していこうというグループに分かれているが、1つのテーマとして取り上げていこうと考えた。

【質疑応答・討議】

○田中コーディネーター

- ・ 各グループの発表を聞いて感想や意見があればご発言いただきたい。

○参加者

- ・ 本日の討議の結果は、資料化してご提供いただけるのか。

○田中コーディネーター

- ・ 次回までに、本日の討議の結果はすべて書き起して資料化したものを提供する。資料は本日の討議結果をそのままとりまとめたものと、それを踏まえ次回以降討議していく3テーマに整理した事務局資料の2種類を提供することになる。
- ・ 次回以降討議していく3テーマの抽出について、コーディネーターである私と事務局で作業させていただくことはご了承いただきたい。

○参加者

- ・本日のグループは、これで解散なのか。

○田中コーディネーター

- ・本日で解散することになる。各人には本日の討議結果を踏まえ、次回以降自分が参加したいテーマをある程度イメージしておいていただきたい。次回の冒頭に、事務局から今後の討議テーマを3つ提示させていただくので、各人の意向で改めて3グループを編成して討議を行っていく。

#### 【5分間の休憩】

#### 4. 事務局からの連絡事項（次回の日程等）

○田中コーディネーター

- ・次回の日程の確認と、第4回に想定されている施設見学会をどうするのかについて考えていきたい。この判断は次回でも間に合うが、選択肢としては施設見学会ではなく、討議の時間を確保したいということもあり得る。

○参加者

- ・施設見学会は平日の夜に実施するのか。

○田中コーディネーター

- ・平日の夜では施設が開館していないことが多いと思われるので、週末の日中を想定している。それでは事務局から次回の日程について確認していただく。

○事務局

- ・次回の会議は開催案内に同封した日程調整集計結果の通り、11月9日（金）は参加可能者数が最も多く、参加できない人もいなかったということでこの日の19:00～21:00に開催する。

- ・また、第4回目は施設見学会の企画が当初想定されていたが、分野によっては施設見学会よりも討議を行いたいこともあり得る。そこで、第4回を施設見学会にするのか、討議にするのかについては、次回会議の最後に、みなさんの意見を伺って決定したい。

○参加者

- ・どの施設を見学するかは決まっているのか。

○事務局

- ・次回の議論を踏まえ、みるべき施設をみなさんで決定していただくことを想定している。

○参加者

- ・仮にテーマ別に見学したい施設が異なった場合は対応可能なのか。

○事務局

- ・見学する施設によって対応は異なると思うが、グループ別を実施することになると対象施設数も増え、すべての施設と調整しきれない可能性が高い。そこで基本的には分科会

で1つとなって実施できればと考えている。

○参加者

- ・例えば、区議会や委員会を傍聴したい場合、実施することはできるのか。

○事務局

- ・もちろん傍聴は認められているが、委員会によっては部屋の広さの都合で30名が入室できない場合も多い。委員会によって対応が異なると思う。

○参加者

- ・確かに第5分科会のテーマを考えると、区議会を傍聴するというのは有意義かもしれない。

○参加者

- ・区議会の傍聴も良いが、例えば防災センターがきちんと予算に見合った運営がされているのかなどを確認していくことも有用だと思う。

○事務局

- ・いまいただいたような意見を次回の最後にみなさんで検討して、第4回の進め方を決めたい。
- ・最後の連絡事項となるが、前回の議事概要について、内容に間違いがなければ、発言者を伏せた形で公表させていただく。指摘があればおおむね1週間以内に事務局までお伝えいただきたい。

○参加者

- ・開催通知文に「欠席する場合には特に連絡する必要がない」旨が記されていたが、そのような通知は失礼である。連絡するかしないかは参加者の判断に委ねていただきたい。

(以上)